VITA PLUS
若者・対話・地域

2005年6月3日、4日、高知県の高知市と大方町にて、”草の根情報化セミナー「市民塾サミットin高知」＆「おおがた学校一日体験入学」”が開催されました。地域の情報化に積極的に取り組んでいる団体が高知に集まり、慶應義塾大学SFCからは國領研究室とVITA+メンバーを始めとした研究室が参加しました。

1日目のプログラム、「市民塾サミットin高知」は高知市にある高知工科大学にて催されました。開会の挨拶に続き、国領二郎環境情報学部教授が「地域力を活用した情報化」をテーマに基調講演を行い、情報インフラ構築とその利活用の両輪を回転させ、人々のエンパワメントを目指すという地域の情報化の基本モデルを示しました。続いて行われたパネルディスカッションでは、富山や徳島などの参加者から実際に進んでいる各地の情報化の取り組みの紹介があり、会場と活発な意見交換が行われました。今後の課題は、インフラが構築され、その上に乗せる魅力的なコンテンツがまた新たなインフラを必要とするといった循環を生み出すことであると感じました。

2日目は高知市の南西に位置する、大方町の大方高校に舞台を移し、「おおがた学校一日体験入学」と題したイベントが開催されました。その中の1コンテンツとして、ケースメソッド体験が行われました。飯盛義徳環境情報学部専任講師がケースリーダーとなり、大方高校の生徒15人と、地元の市民15人が参加。昨月の5月からVITA+の西田が開発したTシャツアート展(http://sunabi.com/index.html)のケース教材を用いて、地元大方町で毎年ゴールデンウィークに開催される身近なイベントの今後の方向性について議論がなされました。高校生向けにケースメソッドを使った授業は全国的にも先進的な試みであり、普段の学校の勉強には明確な答えがあるのが当たり前になっている高校生にとって、自分達が議論の中で答えを模索するケースメソッド形式は新鮮に感じる一方不慣れな点もあったようです。しかし紋切り型の答えではなく、自分の意見を自分の言葉で語る高校生を見ていると今後の教育におけるケースメソッドの適用に可能性を感じる瞬間でした。またこのような活動に地域の子供たちが参加することで地域の活性化の萌芽となることも期待されます。そしてこのイベントの参加からSFCと各地域との関わりがより深くなり、面白い取り組みが生まれて欲しいと思っております。（西田みづ恵）